

## 個別意見

- ・このコースが疫学と統計を学ぶきっかけとなり、研究計画の立案か情報収集の際に普段の業務とは違った視点から物事を考えることができるようになったと感じています。また、このコースで一緒に研修を受けた方と研究等の情報交換を行うきっかけになりました。
- ・疫学調査の研究分野だけでなく、最近では、理化学の実験データ解析においても統計的にデータを処理して、分析法を評価することが多くなりましたので、統計学を学ぶのに良い研修であると思いました。
- ・このコースを受講したことが疫学と統計について学ぶきっかけとなり、研究計画の立案か結果の解析の際に、これまでと違った視点から物事を考えることができるようになったと感じています。
- ・研究デザインを考え、データを解析、論文の投稿、また、レフリーへの対応全てに生かされていると考えています。昨年度の実習に参加した時に持っていった自身のテーマは論文化することができました。
- ・疫学調査や統計方法を学んだことで、業務で行ったアンケート調査に活用することができた。

A版、B版とも回答者が少ないが、ほとんどの人が、現在の職務遂行にとって、本研修は役に立ち、本研修で学んだ内容について、現場における業務や調査・研究に活かされ、現場の業務と関連のある疫学調査へのモチベーションや元気等が研修前より高まったと回答している。反面、受講生が研修で構築した他の受講生とのネットワークを活かしていると回答したのは少数で、研修後のネットワーク作りのサポートも検討したい。今後、基本的な講義の時間数を増やすこと、演習に中間発表会を設定すること等により、さらに充実した研修になるよう努めたい。また、受講生のレベルに差があるので、将来的には、受講生のレベルに合わせた基本コース、応用コース等のコース設定も検討したい。

## (11) 研究機能強化のための疫学・衛生科学研修

目標としていた「研究計画を自ら立案し、それを実行できる中堅職員を育てること」は、達成できたと思われる。 Grant 獲得、欧文論文、和文論文発表、学会発表、キャリアアップに繋がったといった直接的な成果の他、職場で研究計画作りなどの場面で積極性が増したといった間接的成果も見受けられる。

コースの需要に関する質問に対しては、半分の職場で「2～3年に一度派遣したい」との回答だが、もともと派遣してきた職場だけのアンケートなので、一般化はできない。しかし、職場に「研究計画を自ら立案し、それを実行できる中堅職員」が1～2人の職

場が40%とあり、まだまだ少ないこともアンケートから伺われる。ただし、「財政的余裕があれば派遣したい」という回答と共に、参加者が少なかった事に関して「財政的に逼迫している」が半数を超える職場から回答があった点は、留意する必要がある。しかし、参加者が低かった理由の第1位に、コースの認知度が低かったこと（コースの内容を十分に宣伝できていなかったこと）が挙げられていたことは、今後、コースを再開する場合の教訓としたい。

保健所、地衛研の職員を優先し、あまった枠に国立病院や大学からも参加者を募るようになれば、本コースのコンセプトを維持したままの再開も可能ではないだろうか。

## (12) 地域保健支援のための保健情報処理技術研修

### 1. 結果の概要

#### 1) 受講後の状況

受講による情報処理に関する知識・技術レベルの向上については、「本研修受講によって保健情報処理に関する知識が増えた」と回答した者が100%、「本研修受講によって保健情報処理に関する技術が向上した」と回答した者が95.3%と、ほぼ全員が研修受講により知識・技術ともに向上している。また、受講後の職場での業務環境については、「本研修受講前に比べて受講後に情報処理に関わる時間は増えた」回答した者が53.5%であり、半数を少し超える回答者が職場環境の変化があったことが示された。また、「本研修受講後に自分で保健情報を整理または分析した結果を職場で発表する機会があった」と回答した者が53.5%であり、そのうち、「発表の際に本研修で学んだ内容が活かされた」と回答した者が87%であり、職場において情報処理を行う機会があった者に関しては、何らかの形で研修で学んだことが有効であったことが示された。さらに、「本研修受講後に職場で何らかの保健情報を利用して計画立案をする際に自分の態度が変わった」と回答した者が60.5%であり、そのような機会があったと答えた者のうち72.2%の者がより積極的に保健情報を利用して計画立案に関わるようになっている。

#### 2) 本研修の業務への有用性

本研修の業務への有用性については、「本研修で学んだことが現在の業務に役立っている」と回答した者が95.4%であり、大部分の受講者にとって本研修で学んだことが現在の業務に役立っていることが示された。具体的な内容としては、例えば「インターネットを利用した情報検索・収集を効果的に行えるようになり、周囲にも教えることができた」、「保健情報、統計等に関する基本的な考え方を学べたことが、日常の業務を進めていく上で、役立っている」、「図表作成、プレゼンテーショ